

首里城・文化発信

琉球王朝時代、首里城および首里は、政治・経済・文化の発信拠点でした。ここでは、首里を起点に沖縄各地に広がる情報を紹介いたします。

東御廻り(アガリウマーイ)

琉球に古くから伝わる神話によると、琉球の島々は「ライカナイ」から降臨した神「アマミキヨ」がつくったとされています。アマミキヨは、まだ「島」となっていない土地に聖地を造り、五穀を植え、人物を創造しました。そんな創世神であるアマミキヨゆかりのある聖地を廻る聖地巡拝の一つを東御廻り(アガリウマーイ)といえます。その発祥は、琉球の国王が最高神女である聞得大君(きんたう)「えおきみ」をともなつて行った国の安泰と五穀の豊穡を祈る、聖地巡拝と考えられています。その主な参拝地を紹介していきます。

- ① 園比屋武御嶽(那覇市首里真和志町) 国王が外出する際、安全を祈願した礼拝所です。「東御廻り」や聞得大君の即位式である「御新下り」の際、一番目に参拝する拝所であったと伝えられています。
- ② 御殿山(与那原町字与那原) 聞得大君の「御新下り」の際、与那原親川の水で、水撫での儀式が行われました。国王と聞得大君の久高島参詣のときは、「こ」から渡海したと伝えられています。
- ③ 与那原親川(与那原町字与那原) 御殿山での「御新下り」の際、「こ」から汲んだ水を儀式で使用しました。御殿山に天降りした天女の御子の産井(ウフガエ)と伝えられています。
- ④ 場天(南城市佐敷字新里) 琉球三山統一の覇者・尚巴志の祖父、佐銘川大主を祀った拝所。元の場所は大雨による地滑りで失われてしまいました。
- ⑤ 佐敷グスク(南城市佐敷字佐敷) 尚思紹、尚巴志父子の居城。城郭の石は、尚巴志が中山を攻め滅ぼした際、全部首里に運んだと伝えられています。
- ⑥ テグ御川(南城市知念字知名) 太陽神が降臨したとされる聖地。国王や聞得大君が久高島参詣のとき、この泉の前に舟を止め、航路安全の才口を謡ったと伝えられています。



- ⑦ 斎場御嶽(南城市知念字久手壁) 沖縄最高の霊地とされ、アマミキヨがつくった七御嶽の一つ。王朝時代、聞得大君の即位儀礼が行われた聖地として知られています。
- ⑧ 知念グスク(南城市知念字知念) 自然石を積んだ古城とアーチ門を備えた切石積みの新城の二つの郭からなるグスク。城内に、久高島への通所があり、参拝の時に拝んだとされています。
- ⑨ 知念大川(南城市知念字知念) 知念グスクの西側にある泉で、後背地は、稲の発祥地であるアマミキヨがこの地に植えたといわれています。
- ⑩ 受水・走水(南城市玉城字百名) 清水の湧き出る二つの泉で、琉球における稲作発祥の伝説があります。
- ⑪ ヤハツカサ(南城市玉城字百名) 琉球の創世神アマミキヨが上陸の第一歩を印した海岸と伝えられています。
- ⑫ 浜川御嶽(南城市玉城字百名) 琉球の創世神アマミキヨが仮住まいをしたと伝えられています。
- ⑬ ミントングスク(南城市玉城字仲村堤) アマミキヨが、丘陵部へ進出して開いた安住の地と伝えられています。(私有地のため、許可なしでは入れません)
- ⑭ 玉城グスク(南城市玉城字玉城) アマミキヨがつくった琉球七御嶽の一つ。千ばうの時には、首里から使者が派遣され雨乞いの祈願が行われる場所でした。



沖縄本島南部道路図



首里城の話から 花の祭典、盛況に終わる。 『首里城花まつり』もう一つの美

昨年(ひきつ)き首里城「花まつり」が1/27〜2/25の期間開催されました。「冊封使行列」進貢船など首里城にゆかりのあるものや、花と緑で鮮やかに彩った大型造形物による来園者の歓迎、国王・王妃出御や紅型衣装の披露、琉球舞踊など盛りだくさんの催しもので賑わった首里城花まつりが盛況の後、幕を閉じました。

中でも、復元された古典柄の紅型を紹介した「甦る王朝の美、紅型」のプログラムには首里高校の染織デザイン科から9名の生徒が体験学習の一環として参加、首里城の歴史とあわせて着付け、結髪、振る舞いを学び、自らモデルとなり多くの来園者に王朝の美を紹介しました。

また、同時期に新施設の「書院・鎖之間」が完成し一般公開され、その中で展示されたラン人形も花まつりに華を添えました。期間中、昨年より多い30万5千人余が首里城を訪れ、クイズラリーでは、地元客が楽しく首里城を学ぶ姿も見られ訪れた人々は、一足早い春を満喫していました。



首里高校からの参加者

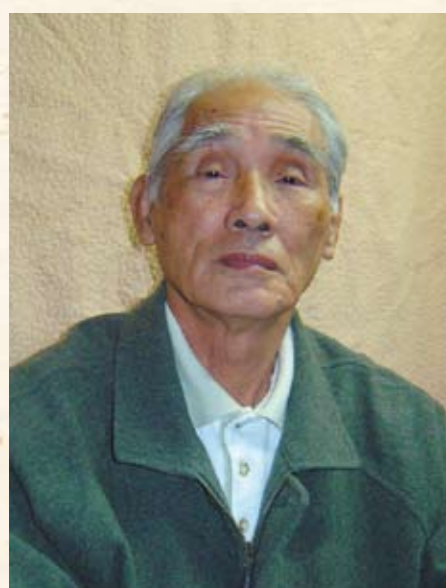
Vol. 7 SHURIKAWARABAN 首里かわらばん

特集 琉球の宮廷音楽

インタビュー インタビュー 首里王府路次楽保存会会長

阿波連本勇さん

宮廷音楽は、首里王府のさまざまな宮廷儀礼に用いられたもので、琉球使節の「江戸上り」では、行列の道中や江戸城中の大広間で、將軍の面前で演奏されていました。今回は、宮廷楽器を演奏するかたわら、その伝統の継承を行っている阿波連本勇さんにお話をうかがいました。



宮廷音楽との出会い
記者：阿波連さんと宮廷音楽の出会いをお聞かせ下さい。
阿波連氏：私が十七歳の時(一九五二年)に、私の父である阿波連本啓(はれんほんけい)・琉球創作舞踊の先駆者)が首里劇場にて、路次楽、御座楽の舞踊公演を行い、その演目の「城下町今昔」で、ペリー提督を守礼門に迎入れる場面がありました。その時に聞いた、路次楽、御座楽の演奏が



江戸時代の演者と曲名の記録

首里には魅力的な歴史資源があると同時に、それを支えて活動する人たちがいます。この首里かわらばんでは地域で活躍している人たちを紹介していきます。

宮廷音楽とは
記者：琉球の宮廷音楽はどのような時に演奏されていたのですか。
阿波連氏：琉球での宮廷音楽には、「御座楽」(うざがく)と「路次楽」(ろじがく)の二種類があり、冊封使接待や江戸上りの時、薩摩屋敷や江戸城内で演奏されたのが御座楽です。また、国王の行幸の時に屋外で演奏されたものが路次楽です。



保存会の前身、阿波連本流琉球舞研究所

首里王府路次楽保存会の経緯
記者：阿波連さんは首里王府路次楽保存会を結成して、舞台活動をされるようになりました。
阿波連氏：私は父と師匠の志を受け、伝統ある首里の御座楽、路次楽を後生に伝承しなければならぬという思いで昭和五十二年五、六人のメンバーで保存会を発足しました。当時は御座楽、路次楽の文献や資料が少なく、また、楽譜、楽器等も不足していたため、それらを復元することになりました。

今後の取り組みについて
記者：今後の保存会の展望について一言。
阿波連氏：そうですね、琉球の宮廷音楽・音楽の歴史的な背景について更なる調査が重要だと思っています。それを、若い世代へ伝承していきたいと思っています。
また、私の父、師匠をはじめ沢山の方々からご指導いただき、保存会が継続出来ているので、感謝の気持ちをお忘れずにがんばって行きたいと思っています。
これからも、私たちは首里を中心に、さまざまな行事、イベント等に積極的に参加し、首里王府伝統の宮廷楽器の美しい音色を、たくさんの方に聞いてもらいたいですね。
記者：ありがとうございます。

語句解説
◆冊封使(さつほうし)：冊封とは中国皇帝が国王の地位を認める外交的な儀式のこと、この儀式のために派遣された使節団を冊封使という。
◆ペリー提督：アメリカ東インド艦隊司令官。一八五三年に来沖。

情報お待ちしております。
首里かわらばんでは、首里地域の歴史文化を染しめる情報づくりを目指しています。身近にある首里の魅力、地域の活動など、情報提供をお待ちしております。編集委員も随時募集しています。

●お問い合わせ 事務局 TEL 862-2390

発行 (財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター
〒900-8815 那覇市首里金城町1-2
TEL 098-886-2020 FAX 098-886-2919

タイトルデザイン 石原左内
首里城公園ホームページ <http://www.shurijo.com/>



仲村 唯さん
「普段体験できない琉装、一着一着大切に織られた紅型を着けさせてもらいました。初日は結髪に慣れず苦労しましたが楽しく出来ました。今回参加したことにより首里城について興味をもち、色々な事を学ぶことが出来ました。ウチナーンチュとして自分たちの首里城の事を知らなかつたのは、はずかしく思いました。」

他の生徒からも、貴重な学習の機会に感動の声も寄せられました。自ら染織を学び、将来世界にその美しさを伝えるであろう若者が輝いたもう一つの美が印象的でした。